

製品名: TGF α ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18854**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	10kDa

抗原情報

遺伝子名	TGFA
別名	TGFA; Protransforming growth factor alpha
遺伝子 ID	7039.0
SwissProt ID	P01135
免疫原	抗血清はヒト TGF α 由来の合成ペプチドに対して産生された。アミノ酸範囲: 111-160

背景

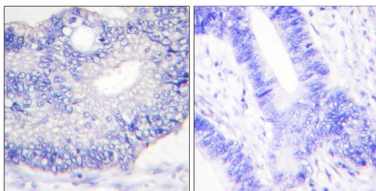
この遺伝子は、上皮成長因子受容体のリガンドである成長因子をコードし、細胞増殖、分化、および発達のシグナル伝達経路を活性化します。このタンパク質は、膜貫通型リガンドまたは可溶性リガンドのいずれかとして作用する可能性があります。この遺伝子は

多くの種類の癌と関連しており、口唇裂・口蓋裂の一部の症例にも関与している可能性があります。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが見つかっています。[RefSeq 提供、2011 年 9 月]、機能: TGF α は、EGF 受容体に結合し、TGF β と相乗的に作用して軟寒天中で足場非依存性細胞増殖を促進する、分裂促進性ポリペプチドです。、類似性: 1 つの EGF 様ドメインを含みます。、サブユニット: MAGI3、SDCBP、および SNTA1 の PDZ ドメインと相互作用します。SDCBP との相互作用は、細胞表面への標的化に必要です。小胞体において、未成熟型（すなわちプロセグメントを有し、完全な N 型糖鎖が欠如している型）は CNIH と相互作用する。ゴルジ体においては、CNIH および GORASP2 と複合体を形成する可能性がある。

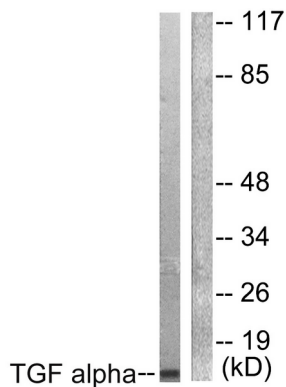
研究分野

ErbB_HER;がんの経路;腎細胞癌;膵臓癌;神経膠腫;前立腺癌;非小細胞肺癌;

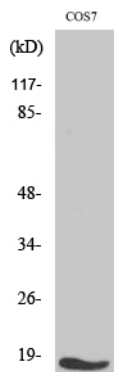
画像データ



TGF α 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト大腸癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



COS7 細胞ライセートの TGF α 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



TGF α ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析